

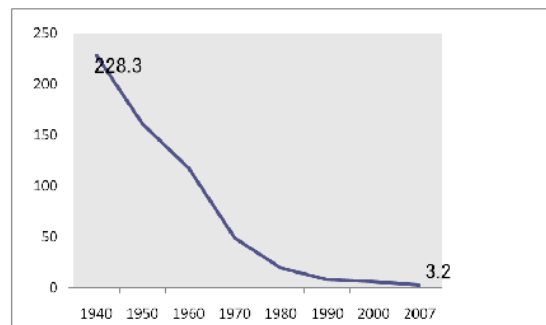
# 産婦人科の立場から

兵庫県立西宮病院 産婦人科部長  
信永 敏克

## <分娩は安全？>

2007年の妊産婦死亡率は対出生10万人中3.2人で、1940年の228.3人から激減しています。

死亡率の変化(出生10万対)



しかし現在でも世界平均は対出生10万人中400人であり、日本はオーストラリアと並び世界最少を維持しています。

## 妊産婦死亡率の国際比較

出生10万対

日本	3.2人
オーストラリア	3.2人
フランス	5.3人
イギリス	6.7人
アメリカ	18.4人
アジア	330人
アフリカ	830人
アフガニスタン	1900人 (1/53人)
世界平均	400人 (1/250人)

この高い安全性は、妊婦とその家族や医療関係者の努力によって成し遂げられたものですが、現在でも全国統計によれば、250人に1人の妊婦は、分娩時に生命の危機にさらされていると報告されています。この250人に1人という確率は、交通事故で死傷する確率の17倍であり、決して低率ではありません。

## 交通事故死傷者数

	死傷者数	頻度
2005年	35691	1/3600
2006年	33973	1/3600
2007年	29490	1/4300

分娩時、死に至る危険性 1/250

実際、川西市・猪名川町でも年間 10～20 人が救急車で母体搬送されているのです。

## 川西市・猪名川町の出生数

	平成19年	平成20年	平均
川西市	1235	1289	1262
猪名川町	129	120	125
計	1364	1309	1387
搬送産科症例数	11件	22件	17件
川西消防本部	9件	18件	14件
猪名川消防本部	2件	4件	3件

川西市・猪名川町での妊産婦死亡 22年に1名  
死に至る危険性のある妊婦 5.5人/年

### <産科医療崩壊>

産婦人科医師の減少や高齢化、また、女性医師の増加により、分娩施設数は激減しています。

## 産婦人科医師

- ① 産婦人科医師数の減少  
1990年に比べ、22%減少
- ② 産婦人科医師数の高齢化  
50歳以上が52%
- ③ 女性医師の増加  
新人産婦人科医師の60%以上
- ④ 分娩取扱医師の減少  
産婦人科医師の55%だけが分娩取扱

## 分娩施設数(全国集計)

	1993年	1996年	1999年	2002年	2005年	2008年
分娩取扱病院数	1796	1720	1625	1503	1321	1137
1993年からの減少率		4%	10%	16%	25%	37%
分娩取扱診療所数	2490	2271	2072	1803	1612	1651
1993年からの減少率		9%	17%	28%	35%	34%

救急ではない患者さんのコンビニ受診や全くかかりつけ医がない未受診妊婦の飛び込み分娩が、減少した医療機関に集中し、ますます産婦人科医師を疲弊させています。実際、当院でも受診された救急患者の約半数は救急ではない患者さんであり、また未受診妊婦の分娩では、分娩時の出血量が多く、低出生体重児の頻度も高く危険性の高い分娩でした。

## <改善方法>

妊婦とその家族や医療関係者の努力によって成し遂げられた、安全で安心な分娩が出来る体制を維持するためには、医療関係者の努力だけでは不十分で、市民の皆様のご協力も不可欠です。昨年より川西市や猪名川町では妊婦健診補助券（5000円券 14枚）支給が開始され、また分娩手当一時金も4万円増額されました。これらの制度を活用して、まずかかりつけ医を決めて、妊娠や分娩経過の異常を早期に発見し、早期に治療することで、安全で安心な分娩が出来る体制を維持しましょう。

## 川西市の助成制度

対象者 川西市内の妊婦（所得制限なし）

交付場所 保健センター

申請に必要なもの 母子健康手帳 印鑑

助成方法

- ① 兵庫県内 医療機関に提出
- ② 兵庫県外 自費で払ったのちに、領収書で支払い請求

問合せ先

健康福祉部 健康づくり室 TEL 072-758-4721

## 猪名川町の助成制度

対象者 猪名川町内の妊婦（所得制限なし）

申請窓口 猪名川町役場 健康課

日生住民センター

六瀬住民センター

猪名川町保健センター

交付場所 猪名川町保健センター

助成方法 川西市と同様

問合せ先

生活部健康課健康づくり室 TEL 072-766-1000